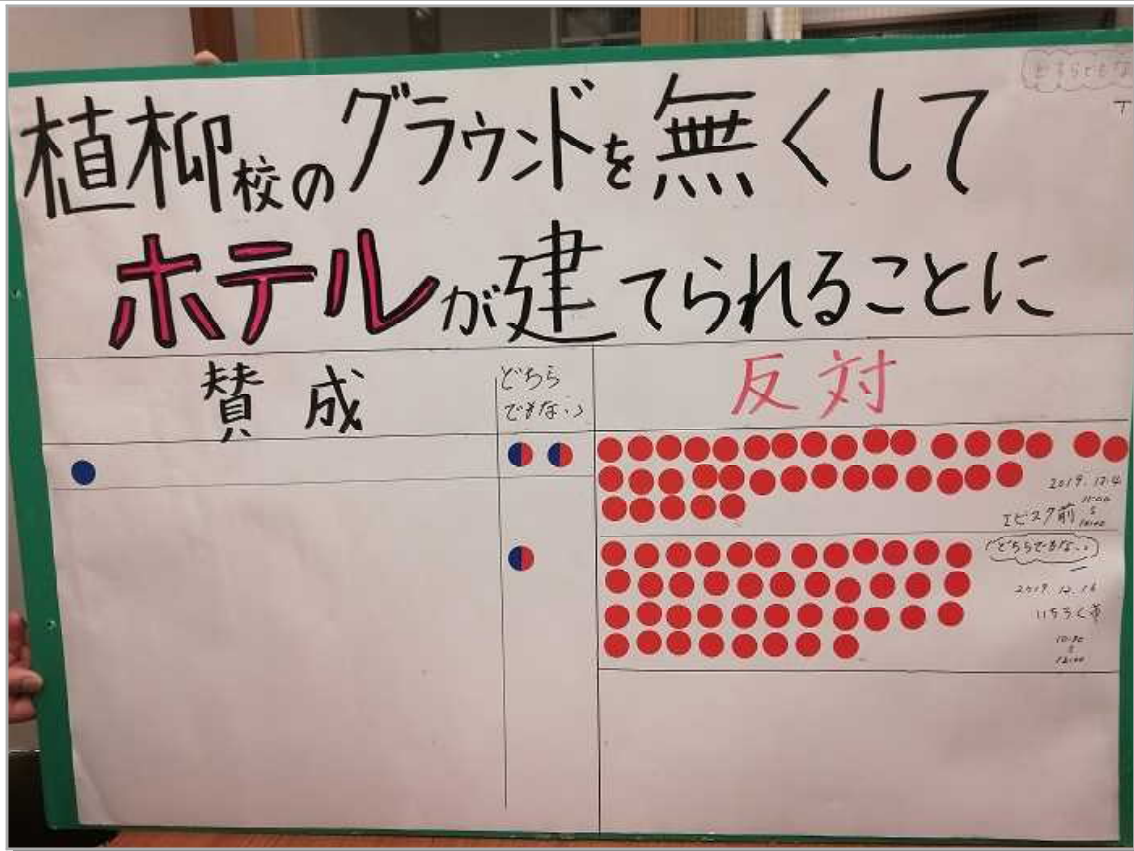


地域住民の声を聞く

住民の意見を吸い上げると言いながら、聞いてはもらえません。本当の声が聞きたくて、エビスクの前で、そして一六市で、ホテル案に賛成か反対か、みんなの意見を聞いてみました。その結果は、下の写真のように、圧倒的な反対でした。



植柳跡地 一六市

住民アンケートはどこに隠されたされたのか
平成二十三年に、自治連合会より、植柳校跡地を全面グラウンドにし、体育館と自治会館を植松公園に建てる案が提案され、住民の意見を聞くために住民アンケートが行われました。九一四世帯の六割より回答があり

A案に賛成が30%

A案は、植柳校敷地を全面グラウンドにして、植松公園に体育館と自治会館を建て、公園を縮小するというもの。

B案に賛成が60%

B案は、植柳校敷地のなかに体育館と自治会館を建て替えてグラウンドも確保し、公園は公園のまま残すというものです。

多くの意見は、公園を自治会活動に使用せず、「植柳小学校跡地の中に」体育館と自治会館を建て、グラウンドも確保し、「公園は公園のまま」残すものでした。住民の意見を聞いた唯一のアンケート結果は、なぜ隠されたままなのでしょう。

地域住民の声とは？

雅小学校の仮校舎に一時的に使用するために、体育館と校舎の耐震補強を市の費用で行うという植柳学区にとっては歓迎すべき申し出もありました。

全面グラウンド化を京都市が認めなかったせいでしょうか、簡単に断ってしまいました。しかも、それが地域住民の意見だと市議会でも報告されています。「地域住民」の名で耐震工事を断ったこ

とは、地域住民にも知らされていません。

なぜここまで地域住民は無視されるのでしょうか。事前協議会に意見を伝えても無視されたままです。

地域のみんなで話し合いを

植柳跡地問題は、地域住民みんなの問題です。一部住民だけで決めるのではなく、地域のみんなが利用する跡地は、みんなの声で決めるものです。

ホテルにグラウンドを奪われ、試合のできない天井の低い屋内運動場にされ、公園では自由に運動できる優先権はありません。これから六十年以上もがまんを強いられる跡地利用で、住民は本当に満足できるのでしょうか。

あらためて、跡地からグラウンドが無くなるホテル計画の賛成・反対を、住民アンケートで確かめるよう要求しましょう。後で後悔しなくてすむように。

■発行者 植柳跡地問題を考える会

世話人 大屋峻